

3次元データでひらく“人文学”の世界

2021年3月13日（土）13:00～16:00

Zoomによるオンライン開催

今や、3次元データは、特殊な技術を要することなく、誰でも作成できるものとなっている。このような技術普及の結果、人文学においても、扱うべきデータの質ばかりか、研究のあり方そのものにも変革が求められるようになってきた。

そこで本セミナーでは、人文系資料の3次元データ化に関する最新の研究事例の紹介を踏まえたうえで、あらたなデータによってひらかれる、これからの“人文学”の可能性について、皆で議論することにしたい。



ヨルダン王国ウム・カイス遺跡 床モザイク 3Dモデル
(提供：国士館大学文化遺産学研究プロジェクト)

13:00-13:10 「開催趣旨」

永井正勝（東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門）

13:10-13:40 「3次元とともに描く考古学・博物館学の未来」

江添 誠（国士館大学イラク古代文化研究所）

13:45-14:15 「Qalawun VR Projectの試み－VRツアーをつくる・活用する－」

熊倉和歌子（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）

14:20-14:50 「3次元データの可能性－学術研究と文化遺産保護の両面から－」

野口 淳（NPO法人南アジア文化遺産センター）

15:00-16:00 「質疑応答」

ファシリテーター 阿児雄之（東京国立博物館）

事前申し込み制

参加無料 先着290名

<http://u-parl.lib.u-tokyo.ac.jp/archives/japanese/seminar20210313>

お問い合わせ先 uparl@lib.u-tokyo.ac.jp

